

## 第 52 回 室蘭市都市計画審議会 議事録

1. 開催日時 令和 5 年 8 月 31 日（木）14：00～16：10

2. 開催場所 室蘭市役所本庁舎 2 階大会議室

### 3. 出席者

委員：市村 恒士（会長）、川村 志麻、西岡 忠広、野橋 知哉、日栄 均、  
真境名 達哉、松岡 喜代孝、南川 達彦、三村 紀子、森川 卓也（副会長）、  
山中 正尚（敬称略）

臨時委員：木村 克俊（敬称略）

市側：（都市建設部長）佐藤 一徳  
（都市建設部次長／都市政策推進課長事務取扱）末尾 正  
（都市政策推進課主幹）稲場 英憲  
（都市政策推進課長補佐）村井 幹男  
（都市政策推進課都市政策推進係長）秋田 裕二  
（都市政策推進課主査）北村 祐貴  
（都市政策推進課主査）堀井 数史  
（総務部防災対策課長）武田 学  
（総務部防災対策推進課防災対策係長）佐々木 健太郎

4. 議題 室蘭市都市計画審議会について（資料 1-1、資料 1-2）

5. 傍聴者 報道関係者 2 名

### 6. 要旨

資料 1-1、資料 1-2 にて事務局から説明

<質疑・応答>

#### 「1.立地適正化計画 防災指針の役割」について

##### 【市村会長】

本日は骨子案のたたき台ということで、一番意見を言える会議となっています。全般を通じての意見もあると思いますが、資料の項目は 1 番から 7 番までありますので、それを意識しながら進めていきたいと思います。まず立地適正化計画の防災指針の役割についてです。立地適正化計画において居住や都市の機能を誘導する際に、防災の立場から見ていきましょうという話になっています。8 月の案ですと、居住誘導区域だけの話ということになっていましたが、都市機能誘導区域も足してはどうかというご意見があったので、そのあたりが反映された内容になっています。

##### 【川村委員】

防災指針の目的のところで「全国で水災害が頻発・激甚化している」というフレーズで始まっていますが、津波だけのイメージになってしまわないかなと思いました。「地震・風水害」のようなフレーズの方が適切ではないでしょうか。

#### 【市村会長】

幅広い意味で水災害だけではないということを説明していただければと思います。

### 「2.ハザード情報の整理」について

#### 【市村会長】

次、2番のハザード情報の整理です。地勢、洪水、津波、土砂災害、内水ということで整理されています。

#### 【真境名委員】

洪水などが起きる現象のことがわからないと、読み進めるのが難しいのかなと思います。例えば津波が何分後に来るのかとか、洪水は急に来るのかとか、それがわかることで備えが変わってくると思います。そのあたりの想定をここでもう少し説明するといいいのかなと思います。雨が降り始めてからの避難のタイミングということもあると思います。2階建てです、平屋ですと言われても、要配慮者とそうでない方で避難の仕方が違うと思います。想定外という言葉はよく使われますが、市としてこういう想定で考えているということをもう少し言ってもいいのかなと思います。

#### 【市村会長】

想定のことでもう少し具体的に書いた方が良さそうです。

#### 【事務局】

できる限りわかりやすい記載にするよう心がけたいと思います。

### 「3.災害による危険性の高い地域の分析」について

#### 【市村会長】

3番は災害の危険性の高い地域についての分析となっています。(1)～(7)は洪水関連、(8)～(14)は津波関連、(15)～(16)は土砂災害関連、(17)～(18)は避難関連となっています。

#### 【西岡委員】

洪水の浸水深では、中島町や知利別町のあたりに区域が示されていますが、(18)の避難キャパの過不足の分析では、洪水災害の想定避難者数は蘭東地区で5名、蘭北地区で3名となっています。これだけ広い範囲であっても、避難者はこの程度という想定という、その理由を確認させてください。

#### 【事務局】

洪水災害の想定避難者は、浸水深さ 3m 以上の区域の人口としているので、避難者はほとんどいないという分析となっています。

#### 【西岡委員】

3m の浸水となると 2 階に届くくらいなので、ベッドとか全部濡れてしまうと寝泊まりはできなくなると思います。そういうことを考えると、想定避難者数はもっと多くなるのかなと想像します。津波に関しても同様に想定避難者数は変わってくるのかなと思います。

#### 【事務局】

避難の考え方はいろいろある中で、この分析では 3m に絞ってはいますが、実際には台風や低気圧の状況によって雨の状況はいろいろ考えられますので、防災の対応としましては、やはり危険なエリアにいる方は避難してくださいという呼びかけは行なっていくしますので、おそらくエリア内で心配な方は避難されるのかなという想定はしています。

#### 【市村会長】

確かに 3 人とか 5 人って少ない気がするので、もう少し柔らかい考え方で想定される方が今のお話を含めるといいのかなと思います。複数案でも構わないと思いますので、この場合だったらこれくらいの人数、ミニマムだったら 3 名になりますというのでもいいかと思えます。

#### 【山中委員】

地勢を見ますと、室蘭市史にある成り立ちということで、1000 年前くらいに海底火山の噴火でこの地形ができて絵鞆島というのができあがって、その島の中に中洲ができて今の地形になっています。それと今の洪水の関係ですけど、工業団地ということで、それぞれの水源の上流には大体、企業のダムがあります。大抵はそのダムの中で洪水を抑えられると思いますが、オーバーすると洪水が発生してしまうと思います。その辺、企業のダムと洪水の関係の中でどのような協定を企業と結んでいるのでしょうか。

#### 【市村会長】

この後の都市機能誘導の観点で、民間とのタイアップとの話とも関係しそうです。

#### 【事務局】

協定の話は認識できておらず、おそらくないのかなと思いますが、例えば知利別川の上流には日本製鉄さんの貯水池があります。知利別川は普通の計画規模で現在河川改修をしていますが、河川改修している規模の中でやる分には、貯水地の部分はその部分で一部貯留できるよという考えで、川に流れるのはその部分の一部ですということで若干減らした計画にはなっています。ただ、現状ここにハザードマップでお示ししているのは千年に一回といわれる想定最大規模となりますので、そうなるとおそらく計画規模で貯留できるというのは機能しなくなると考えられます。同じように鷺別川の上は日鋼さんで使っていますが、鷺別川は新たな浸水想定に基づいて、現在新しいハザードマップを作っています。現状はおそら

く災害に対する協定というのはないのかなと思いますが、私どもとしては、ハザードマップについては発表していきますので、まずは皆さんに危険な箇所を知っていただくという対応になるのかなという考えです。

#### 【山中委員】

私が言っているのは逆の発想です。実は、ダムの上流には長い河川がありまして、ダムが満杯になるまで上流から押されるのです。万が一の雨量の時に貯留できなくなって、いつ放水するかということになったときに、ダムの放水が洪水と同じ状況が発生させてしまわないのかなという逆の発想なのです。昔、知利別川は暴れ川って言われていて、結構人が亡くなっていますので、やっぱり企業と連携していくことが必要だと思います。

#### 【事務局】

補足ですが、知利別川に関しては、現状製鉄さんの方で、ある程度水位が上がったときに、高砂川という中島の下水ポンプ場の近くに一部バイパスを通すような形にしていまして、それをやるときには市の方に連絡をもらうという形で連携を取っています。そのようなことも、企業と連携した中で、地域の皆さんにお知らせしていくというのが必要かなと考えています。

#### 【南川委員】

19 ページのマップの教育・文化機能、子育て支援機能には中学校とか高校とかの学校施設も入っていますか。

#### 【事務局】

立地適正化計画で基幹的な施設というものを設定していますが、その中には教育・文化機能として、図書館と文化施設・ホールと複数競技が可能な基本的なスポーツ施設、この3つを設定していまして、学校は基幹的な施設には含めていません。市民が利用するような拠点にあるべき重要な施設という意味で設定したので、学校は入れていません。学校については16 ページで要配慮者の利用施設として立地を確認しています。

#### 【市村会長】

業務の継続性という観点で整理していると思いますが、都市機能を維持することも気になります。事業者の安全だけじゃなくて、都市の機能どうしていくかということは、市役所の維持とかにも関連する話になると思います。分析の視点としては、業務の継続性というよりも、都市機能の継続性という観点で整理してもらった方がいいのかなと思います。

#### 【南川委員】

業務は業務で大事な話だと思います。居住誘導区域は世帯数が多いので子どもも大勢いると思います。防災の観点で学校の話は外せないのではないかという気はします。

#### 【事務局】

16 ページのところでは要配慮者利用施設が、学校とか病院とか社会福祉施設を指していて、特に配慮すべき人たちが利用している施設において、そこでの継続利用をどうしていくかとか、避難支援をどうするかというところのチェックをここでしているので、今後何をやっていくべきかということはこのページを見ながらやっていければと思います。

### 【森川委員】

23 ページに避難場所等への移動所要時間のことが書いています。私たちは図に栄町・舟見町と表示されている蘭西地区の人間で、災害対策や住民の力ということで自助・共助に力を入れています。このページの左側に津波があった時の逃げる時間のことが書いてありますが、津波が来る 33 分の間に逃げるということで、まず服を着替えたり表へ出るまでの時間が 12 分ですよと。それから避難場所までの移動時間が逆算すると 20 分くらいですよということで、この図面と数字では、栄町・舟見町の住民は避難するのが難しいのではないだろうかということが表されているのだと思います。この移動速度が 0.1 秒間に 0.4m ということで、500m を逃げると 20 分くらいとなっています。だいたい 20 分ありますと、我々の避難訓練の経験だと舟見町のある程度歩ける人だと、指定避難所の文化センターまで 15 分くらいで行っているのです、お年寄りでも歩ける人は 20 分で 500m 以上は逃げられるのではないかと思います。これは結構ゆっくり歩く人への対応かなというような感じもしますし、ゆっくりの人たちは逆に言うと 500m 歩けない人も出て来ると思います。先般、要支援者の車避難の訓練をやったのですが、その人たちは車でないと逃げられませんが、今回の防災指針では車避難のことは出てきませんし、まだ話題に出さない方がいいのかなと思いますが、我々もこういう要支援者的な避難困難にしては、車で避難をすることを前提に避難訓練や避難対策をしています。日本海溝の津波は約 40 分で到達するという数字が市の方で出しています。そういう形から言うと、この 33 分というのは思ったよりも短い時間だなと、これだと蘭西地区の我々が避難する場合、ギリギリの時間だなという感じがするし、40 分ありますといったら、ある程度間落ち着いた避難行動でできると思いますが、この辺は、小さいことかもしれませんが、ハザードマップや地域住民の避難の関係とも絡んでくる気もするので、留意していただければありがたいなと思います。

### 【市村会長】

数値に関してはいろいろな考えの中でやられているのかと思います。感覚的に 1 分で 25m は結構遅いなと感じます。厳しめに書くのがいいのかは結構難しいとは思いますが。

### 【森川委員】

避難の時にみなさんゆっくり行ってくださいと案内しても、火事場の馬鹿力で、結構速い足で行きます。プロの方にお聞きすると、避難の時は子どもも速く歩くしお年寄りも結構速く歩きますよ。歩けない人はやっぱり車ですねという話でした。二者択一ではないですが、500m で 20 分というのは時間かかりすぎかなという感じがします。

### 【事務局】

ここに記載している通り、東日本大震災の実績ということで、例えば元気な方は速いでしょうし、なかなか避難行動できない方は遅いということで、本当にそれを調べた中での平均値ということになっています。やっぱり個人差というのはいろいろ出てきますので、数値設定は、私たちの方針としては、ちょっと安全側で見てやるのがいいのかなというところです。あと、津波の到達期間の話がありましたが、舟見町では最大波の到達が44分と言われていきます。ただこの44分というのは最大波なので、例えば市役所付近ですと約4m近い津波が来るということになりますけども、避難する際には、例えば陸上で30cmの津波が来たらもう皆さん動けなくなりますという話になります。要は陸上に影響が出始めるのは舟見町ですと36分ですので陸上に影響が出始める前に避難してください、全体として30分以内に皆さん避難してくださいということでお伝えしているところです。最大波が来るギリギリまで大丈夫という考え方は危険になるので、そこはご理解いただければと思います。

### 【市村会長】

若干厳しい方で安全側で見ているということですね。場合によってはもしかしたら幅を持たせて、一般人だと何分だけでも危険を見るとこうだよと示すと安心感も出つつ、危険側にも対応できるのかなと思いました。

### 【山中委員】

先ほど、3つの丘があるという地勢の中で、避難場所は非常にいいところに設置されているかなと見させていただきました。その中で少し気になるのは、前回の津波予想は8mという中で、確か室工大さんの力を借りてハザードマップが作られたと思いますが、今回の道のシミュレーションでは、マグニチュード9.3を想定しています。その発生サイクルも過ぎているだろうという話の中で、冬期間や時間帯別でいろんなシミュレーションができています。室蘭市は大体、対策を打たなければ1万人の死亡が想定されています。これに関係して、登別市では今年また新たに鉄道から海側の鉄南地区で対策を起こしていますし、苫小牧は全てのシミュレーションにはめ込んだ形の中で対策が打たれています。室蘭の場合これから始まってくるのでしょうか、道の予想と今回の案の比較をすると、道では大体8mか10mくらいの予想を立てていますし、時間帯の話は先ほどお答えになっていますが、なぜ避難基準が3mなのか。3mにするのであれば避難ビル高さの問題があります。道が示す8mとなれば避難ビルが使えるか使えないかの問題も出てきます。土砂災害で先ほどエリアが変わりましたとありましたが、これには道のシミュレーションが入ったかと思います。道とのこの辺の連携ってどうなっているのでしょうか。ちょうど令和3年の7月にそのことが報道されていますよね。その関係とのつながりがどうも見えてこないのです。避難等の計画はよくできていると思いますが、連携がよく分からないのです。せっかく作っているのに、それに沿って他の自治体はそれの対策を組んでいます、その姿がよく見えないので、その辺をお聞きしたいと思います。

### 【事務局】

北海道の連携ということですが、令和3年4月に新たな想定ということで北海道の方で津波の新想定が出ました。関係市町村に対して北海道から考え方ですとかエリアの説明等が

あった中で、現状においても開発局、それから北海道を交えて、例えば胆振・日高管内ですと、関係市町村と一緒に対策会議を定期的に行ったりする中で連携を図っているところで。また、津波に関していうと、地域でもいろいろと課題がありますので、その課題解決について国と共に連携しながらやっていこうということで、それこそ東地区の線路横断というのが大きな課題で、地域からもあそこを渡らせてほしいという話が出ています。私どもも個別で事業者と協議はしていますが、やはりそれぞれ個別の市町で対応というよりは北海道なり、国が地域の意見としてまとめて連携して進めないと話が進まないのではないかということがありましたので、現状は国と道と連携して鉄道事業者に話しに行くという話も伺っていますので、そこは連携を図りながら進めているところです。

### 【山中委員】

この計画の中でどう具体化して続けていくのかというのが見えなかな、という感じがしました。もう一つ、道のシミュレーションもテレビ画像で津波が出たときいろいろ壊れていくとか、そういうような画像もあるので、せっかく室工大さんがあるのであれば、そういうのを発信してみるといいのかなと。既に発信しているところもありますし、苫小牧もそういうのを作っていますので、そういう形のものを作っていくと、例えば幼児教育も含めながら非常に危機感を持っていけるのかなという気がするものですから、その辺をぜひやっていただければありがたいな、と、基本的には非常に安全対策をやっているのですが、これを具体的に進めるためにはそういう連携、それと3つの山があってその中に中洲があってそこは弱いのですから。そこのところに大体今は公共施設や住むところが結構あるので、避難場所は結構変わって整備されていると思うので、あとは動線の関係も含めて、森川さんが言われた通りの連携も含めてやられたほうがいいのかと思いますので、もう少し具体性があつたほうが市民は見やすいかな、聞きやすいかなと思います。これからパブリックコメントもやりますし。

### 【市村会長】

被災の想定は道の想定とも連携してやっていただくということと、防災の教育あたりは方針とも絡むものかなと思います。そのあたりも具体的なわかりやすい教育を進めるとか、実際の動きとしてやらなければいけないという話だと思います。

### 【真境名委員】

先ほど南川委員が指摘したところは僕も気になるところで、16ページ、24ページの要配慮者というのは新バリアフリー法の用語でしょうか。なんとなく体が動かない人、要支援にはそういう人も入るし、ここを見ると確かに日常生活云々の学校が入っていますよね。これは分けたほうがいいのかないかなという感じがしました。例えば、311の時に函館で膝下の津波浸水で亡くなった方がいます。多分体が不自由な方だと思います。家の中でパーキンソン病の人が洗面台で死んでしまうということもあります。そういう人たちと、一方でせっかく27ページあるように、これは結構進んだ考えで、業務がちゃんと継続するかという視点なので、それは豊かな計画だと思いますが、それ以前にやっぱり学校だとか、消防署とか電気とか水道とか、その辺が止まらないようにちゃんと施設が避けられていますかとか。311じゃないです

けど、発電所は大丈夫だけど、電気がなかったみたい。結局、災害があってもインフラ系が大丈夫ですという保証は、分析として一つあったほうがいいかなと。まとめると、要支援というか、ちょっとの津波でも死んじゃう人、というのと、元気で働いている人という感じで、もう少し分けてもらえたらいいかなと思います。

#### 【市村会長】

いろいろな人がいるという人自体の評価やレベル分けみたいところを留意して整理していただければと思います。

#### 【森川委員】

室蘭市では要支援者の個別の避難計画を作っていくということで、いかに被災者を減らすかということで取り組んでいると思います。この計画の中にも書いてありますが、改めて、防災担当の方としてはみんなすでにやっていますよ、という分野もかなりあると思います。改めてこの防災指針で取り組まなきゃならないということはなんでしょうか。今現在、防災担当が進めているソフト面はかなり順調に進んでいるような気がします。防災ハザードマップだとか、既存の対策を変えていかなきゃならないというものが出てくるものなのでしょうか。我々地域住民に対して、今こういう指針が出たからここはこういう風に取り組んでください、というものが、新たなものが出てきそうな感じなのでしょうか。役所全体の中ではどうお考えですか。

#### 【事務局】

今作っている立地適正化計画の防災指針と、防災対策課でやっている地域防災計画や強靱化計画と連携を図るところがありますので、その中でもし、何か変わるようなところがあれば皆さんにお知らせしていく必要があるのかなと思いますが、現状この立地適正化計画の中で整理している中では大きく変わることはないと考えています。

#### 【市村会長】

安全側で評価するという話はいいとは思いますが、ある程度既存の計画との整合性が取れていないといけないというのは大事なところだと思います。そのあたりは調整しながら修正してください。

#### 【山中委員】

前回審議会の中で防災対策課と都市政策推進課との間にギャップがあるみたいな話をさせていただきました。審議会の中で、同じテーブルに2つの課がついているので、一つの方向性が出てきたのかなと思っています。その中で津波の話があります。道から示された想定では、千島海溝地震では道内で10万人の死者という数字が出ており、それと同時に低体温症要対処者は2万2千人という数字が出ていますが、これは対策するとゼロになるとされている。避難場所はいい場所に設置されているかなと思いますので、季節とか時間帯とか施設の備蓄ですとか、そのあたりも計画に組み込むと、きっと国や道が示すような死者数はゼロ



に近づくとと思います。先ほどの動線の話も含めて計画に入れていただければいいのかなと感じています。

#### 【西岡委員】

津波の時は東町の変電所はもちろん水没するというので、例えばあそこが水没した時の停電の影響範囲がどの辺まで及ぶのかということは、市民は意外と知らなかったりすると思います。送電線があって送電線から配電線に繋がって、どこからどこまでこの線が繋がっていて、ここが水没すると、例えば病院で言うと日鋼は大丈夫なのか、市立病院は大丈夫なのか、とか国が示した立地適正化計画の手引きにも確か、ライフラインのことも盛り込むように記載されていたと思います。なので、今回は室蘭市独自の計画ですので、ライフラインがどこまで止まるのかというのを明確にしておく、市民はうちも停電になるんだ、断水しちゃうかもしれないんだ、ということがわかるかと思います。それとやっぱり北海道特有の冬場、例えばオール電化住宅だったら暖房は全く使えなくなるわけなので、そうなった場合は避難者数は絶対増加するでしょうし、北海道特有のものとまた室蘭市独自の被害想定というのをぜひ追加して記載していただくと、市民側としてはありがたいかな、という風に感じます。

#### 【山中委員】

電力側の人間として一言言わせていただきます。東町の変電所の前に送電線が1本しかなくて、あそこがやられると、そこから西側の電気が全部止まります。変電設備があっても鉄塔がやられると無理です。それが発生したのは平成24年11月27日の大規模停電です。本輪西方面はつくけど、こっちがつかないという状況でした。ただその経験があったせいではないですけど、胆振東部地震の時は結構そういう意味では皆さん被害を経験しているので、安全対策も含めてやられたのかなと思うし、それぞれの施設も発電機の準備などやられているのかなと思います。あと、オール電化についていろいろな言い方がされていますけど、全てのエネルギーは電気がないと動きません。むしろオール電化の方が何日か持ちます。ライフラインは特に重要なことです。一番今心配されているのは大きな津波災害のことで、水の対応をどうしていくかということが非常に求められているような感じがしています。

#### 【森川委員】

さっき室蘭市の津波での死亡者の話が出ましたけど、夏場の昼間で死者1万人の想定です。冬の夜だと死者数は約5000人くらいです。私も初めて見たとき、逆でないのかということいろいろ聞いたり調べたりしたら、やはり室蘭市は昼間人口が多くて、市役所に職員が来ているとか、ここで会議をやっているとか、お店屋さんに来ているとか、昼間の人たちが逃げ場を失って亡くなるのが1万人ということになっていて、夜はみんな静かに寝ていたりするので、冬場は5000人くらいの数字です。我々地域住民としては、やはり冬場の夜中に津波とか地震が来たときにどうするか、というのが災害時の問題点になります。特に大雪が降った時など車を出せないとなるかもしれない。そうすると、5000人よりもっと多い死者や被害者が出るかもしれない。そういうこともいろんな場所で知ってもらう方法を講じていかななくてはならない。新聞かテレビで見ましたが、ある市町村では、公共施設の電

気とかガスとかの設備を守る地域ボランティア的なものを行っているようです。このようなことも大事なかなと感じます。

### 【日栄委員】

31 ページにいろいろな避難場所が出ていますので、経験の中での話しをさせてください。2018 年の胆振東部地震の時に、夜中に揺れましたよね。あの時、私、たまたま外国人の方の管理者団体をやっています、その時、留学生やその家族から電話がありました。学校の方では、体育館に行きなさいという話でしたが、体育館に行くと、施錠がされ、開放もされていませんでした。電話もジャンジャンなって、どうしたらいいんだと聞かれたとき、まずは動かないで充電だけはちゃんとしようと伝えて、結局動かなかったのです。次の日に文化センターの避難場所に行きました。そこに体育館に来ていた海外の家族連れがいて、文化センターの窓口が対応に苦慮しており、うちの団体に対応の依頼が来ました。いろいろすったもんだがありまして、最終的にはうちのスタッフの家で2泊してもらいました。結局、外国人対応もさることながら、避難施設となる公共施設が夜間においても、ちゃんと開放できる体制が取れていることが大事なのだと思います。時間帯によって対応手順も変わってくると思います。夜間の対応がダメならば、ここに行ってくださいという対応が必要だと思います。時に若い人だと、ネットで情報を取ろうと思うので、ネットでの避難情報の充実も必要だと思います。また、なぜ避難場所に行かなければいけないのかという、メリットとデメリットや食事があるかどうか等の一元化された情報が、外国人にもわかるように整備される必要があると思います。避難所に行った後も、情報弱者のための手当がなされる仕掛けが必要です。そこに要支援という言葉が先ほどから出ていますが、町内会が高齢化している中で、さらに要介護の人のケアやサポートするための支援が必要だと思います。消防団はもちろん想定内だと思いますが、事業所やサポート隊など、そういう時のための協力してもらえようような登録組織などいろいろな仕組みにより、室蘭方式としてサポートされると安心です。外国人の方もどんどん増えていますから、特に工大の方は何百人って単位で住んでいるので、道で作成している外国人専用のハザードマップの提供や QR コードでの他言語対応などが、これからの室蘭の災害対策としてはいいのかなと思っています。

### 【市村会長】

留学生のあたりは、先ほどの避難者のレベル分けというか、特に工大生留学生多いのが特性ではありますので、そのあたり留意する必要があると思います。避難所については機能がちゃんと機能しているかということだったり、機能には各々の特性とかもあったりするので機能の分類だとか、あとはこの収容人数自体は、1000 人とかありますが、これもすごく手厚くすれば 1000 人だけど、ただ屋根があるだけだったら、それこそ一日泊まれるだけだったらというように、たぶん機能によって変わってくると思います。一夜だけ明かさなければいけないような状態の時に、どれくらい機能性がそのレベルだとあるのかとか、それこそ 1 週間 1 ヶ月だったらみたいなところを整理しながらやったほうがいいのかなと思います。

### 【日栄委員】

避難所と避難場所はしっかり住み分けて書いたほうがいいと思います。

### 【山中委員】

災害復旧で安平に行ってきましたけど、避難所は一週間くらい経つと、生活する場所に移動しています。

### 【森川委員】

この避難所のページに書いているのは指定避難所ですね。それぞれの地域では一時避難所もあります。一時的に避難できる場所です。例えば私たちの地域で言えば、文化センターが指定避難所で、この他の一時避難所といえば、例えば室蘭西中学校だとか慈心院の別館だとか、室蘭民報社とかです。その施設がこの表に入っていないので、一時避難所も示した方が、避難者数がカバーされるし、市民にも知ってもらえるのかなと思います。

### 【日栄委員】

言葉がわかりづらいです。命を守る場所と生活を守る場所とか、とりあえず緊急避難が大事なので、まず命を守るために逃げると、命を守る場所と、生活を続ける場所とか、そういう方が分かりやすいと思います。建物のハードというのは何年も経費がかかるけど、ソフトというのはちょっとしたアイデアでできるので、ソフトの部分では室蘭市の防災計画は先行くようなものにしてもらおうと非常にいいなと思っています。

### 【森川委員】

その一時避難所をうまく活用できる市民周知の方法として、避難所の情報はスマホで見られようになっていますが、見る人が限られるかもしれません。FMびゅーがレディモというスマホアプリを使って避難場所の状況だとか分かるという方法を始めていまして、この間も新聞に出ましたので、見られた方おられると思いますが、そういうものを使うと避難所の状況も分かるのでソフト面での避難対策になると思います。そのような対策も計画に入った方がいいのか、これは課題になるかもしれません。

### 【山中委員】

ここには指定避難所しか書いていませんが、実際、町内会の避難場所としては一時避難所も想定しています。一緒に記載すれば避難所のキャパも増えると思います。

### 【日栄委員】

各携帯メーカーで基準が違うかもしれませんが、たいがい普通の人は携帯見てピッピッて鳴ったら、警戒レベル4だから、4のときは命を守ろうと避難所に行き、そこに進んでからまた情報を入れて次の場所に避難すると思います。逃げる方もただ闇雲に逃げないで、順番を立てていると思います。

### 【市村会長】

防災マップとか実際立適の中でどこまで入れるべきか。この機会に今の避難の話のことも合わせて周知できる機会になっていけばいいのかなと思います。

### 【真境名委員】

今のお話はすごく重要だと思います。一方で役所的には載せづらい事情もあるのかなと思います。皆さんの方針はいいと思います。市民にとっての話ですから。気になるのは、立適って市民のための計画なのでしょうかということ。最終的には市民です。一般の人たちも見て分かるというよりは、読むのは行政の人たちが確認書的に読むのだと思います。つまり、いま日栄さんがおっしゃったのはすごく重要な考えだと思います。命を守る場所と生活する場所といった方が市民からしたら分かりますが、計画書にはなかなか載せられないと思います。これはすごい市民への啓蒙書なのか分かりませんが、行政と市民の間ぐらいの性格づけなのかということとをちゃんと意識された方がいいのかなと思います。

### 【山中委員】

ただちょっと気になるのは日常生活の中で町内会などで避難訓練とかやりますと、計画に書いてあるものと実際にやっているものが違うという、ギャップを私は心配したいなと思います。書いてあることと違うじゃん、どこへ行くんだってことにならなきゃいいなと。ですから、一時避難所を明確にした表現にしておかないと、日頃の生活で訓練している人たちは、ギャップを感じ、逆に不安になると思います。

### 【市村会長】

市民向けなのは基本的には防災マップとかハザードマップみたいなのが多分あって、その中で両者は整合性をとりつつということだと思います。防災マップだけで評価されているものじゃなくて、両方がつながっている形にしなければいけない、というところがあります。先ほど言われたように、これを契機に防災マップとか防災教育みたいなのところも、皆さんに公表する中でやっていくし、あるいは方針の中でも防災教育というのが改めてこの中で位置づけてあげることで、その最終的な目標論とか方針の中で盛り込みながらやっていくとバランスが取れるのかなということだと思います。

## 「4.市全体および地域別の課題」について

### 【市村会長】

4番は市全体と地域別の課題ということです。このあたりは見づらいというご意見があったようなので、一番シンプルなのが資料の1-2です。これが施策の評価リスクの分析評価、課題と取組方針が全部まとまったものになっています。全体がうまく見わたせるような形で全体のA4の方を校正してほしいというところは私も個人的には思っているところですが、とりあえず各まちの方針として、特にこういう課題のまとめ方とか方針についてご意見があればと思います。33ページの洪水災害、34、35ページの津波災害、35ページの土砂災害各地域レベルで評価しているようなことになっています。36、37ページが各まちの課題という形で書いてあるところです。各地域で土砂とか津波とか洪水とかに分かれながら提示

されています。このあたりは整理のしようがあると思いますが、各まちレベルで何かもう少しこういう記載というか内容を取り入れるべきだとかあれば。

#### 【木村委員】

(1) は災害別で、(2) が地域別になっているわけで、地域別の方は各地域の人が見れば分かるのでいいと思いますが、(1) の災害別の課題というのもよく見ると、地域ごとに書いてあります。これは地域ごとに書くよりは、津波災害でこんな課題だとして、赤字はこれ対策でしようかね、対応でしょうか。

#### 【事務局】

課題を長く文章で書いたものです。

#### 【木村委員】

そうですね。期待しているのは、課題があって、それに対して何が必要かということを書いているように見えるので、そうすると左に課題を書いて右に赤字の部分を書いてもらって、地区別はあってもなくてもいいですけども、ここが問題になっているということは話したらいいと思います。必要なことは居住誘導区域では一般的にこんな問題がある。それから、都市機能誘導区域では一般的にこんな問題があって、こういう対策が必要ですよ、ということをもうちょっと書き込めないかなと思いました。そして地域別の方が非常によくまとまっていて、これはもう各地域のお住まいの方がこれを見ればいいわけですから、この(1)と(2)がダブったような書き方しているのがわかりにくいと思います。言わばなしになっただけですが、もう少し整理、検討されたいと思います。

#### 【市村会長】

大きな方針のところを、地区のレベルでどうつないでいくかということなので、わかりやすい形で整理していただきたいと思います。

#### 【日栄委員】

資料 1-2 について、東町の方ですけども、地域特性で高齢者人口密度が高いというのはたくさん書かれています。東町だけに避難行動要支援者の避難体制の確保が抜けています。これは何か意図があったのか。高齢者が多いのだけれども、そういうのはあまり問題、取り組みの方針案としては重要視されていないのか。印刷ミスなのか。

#### 【市村会長】

課題とその評価がどうつながっているのかとか、課題と取り組みがどうつながっているのかが見づらくなっています。構造全体として分かるように、左から右にどうつながって、どういう場合だったらどういう風になっていく、というのが分かるような構造にしたいと思います。この地区はこれだからこうなんだ、というのがたどれるような形でしょうか。

## 「5.防災まちづくりの基本的な方針（案）」について

### 【市村会長】

では、5番の基本的な方針です。災害特性に応じたまちなか居住環境の形成というところで、ちょっと無難で、とりあえずこういう方針になっていますが、方針に対して目標が4つあります。このあたりもかなりベースになるところかと思いますが何か質問をお願いします。

### 【木村委員】

40ページが一番上の枠の部分について。「ハザード情報の整理結果、災害リスク分析の結果を踏まえ」のあとに、「居住誘導区域における」と書いてありますが、これをここに書いてしまうと、この計画でやろうとしていることが限定されてしまうと思います。つまり居住誘導区域における防災まちづくりをやるのではなくて、居住誘導区域とそれから都市機能誘導区域でしょうか。このままだと、これは住んでいる人の話ばかりだけですと取られてしまいます。41ページも同じように居住誘導区域内におけるというのは、限定するならしてもいいですが、これはやっぱり2つの柱があったわけで、室蘭は残念ながら、津波水没地域に都市機能誘導区域と居住誘導区域の2つの機能を持ってきたわけですから、そこをどうしたら安全に利用できるかということを書くなら限定しない方がいいと思います。

### 【事務局】

そのとおりです。これはミスです。41ページの目標の中にも都市機能誘導区域の観点をちゃんと入れたつもりではいましたので居住誘導区域だけに限定する意図はありません。ご指摘ありがとうございます。

### 【市村会長】

方針にも居住環境って書いていますね。そのあたりも調整したほうがもしかしたらいいかもしれません。

### 【真境名委員】

今の部分で確認です。居住誘導区域に限定するのでしょうか。それだと外れる場所が多いですよ。居住誘導区域じゃないところもあって、都市機能誘導区域でもないところもあります。その区域だけにするのか、室蘭市全体なのか。そこは大きな方針だと思います。あと根本的にこの5番ってすごく大きいので、立て付けとして最初じゃないかと思います。分析を受けてこうですとかではなくて、うちはこんなまちにしたいからと言うほうがいいのかないと思います。もう一つ立て付けで言うと、41ページ目標1、2、3、4の1で「利便性と」っていらんと思います。「利便性と」って言うと、さっきの業務に支障が出ないとか、そういうことがすぐに見えちゃうと思います。そんなに強くそこを言っているわけじゃなくて、まず安全性を言っているのだから、この文言は外すか、あるいは目標1は目標4の後ろに来るぐらいとか、そんなような立て付けにしないと、まずは基本的な人命を云々とか、

最後は日常生活の支障をきたすとか、そんなような感じのほうがストーリー的にまとまるというか。

#### 【事務局】

立地適正化計画の防災指針ということで、居住誘導区域と都市機能誘導区域に着目して、その中に人とか都市の機能を集めるに当たってどういうことをしていこうかというのを考えていて、基本的にその二つの区域のことだけを書いてその外側のことは書いていないということが、今回の考え方の一つになると思います。そして利便性の話もありましたけど、立地適正化計画は、中心地をどう便利にしていこうかという計画ですので、それと安全面両方大事だよなっていうことを特に言いたくて、目標1を最初に書いているところがありますので、皆さんのご意見をいただきながらどう変えていこうか考えたいと思います。

#### 【真境名委員】

立適の内容がちゃんとわかっていて、姉妹編というかセットでということがわかれば良いですが、事務的などころはなかなか難しいですが、この防災指針だけを見ると先ほどの感想になります。

#### 【事務局】

最終的には、立地適正化計画の100ページくらいの冊子の中に何十ページか挟まるような形になりますが、確かにこの資料だけ見ると、そのような見え方になるかもしれません。

#### 【森川委員】

4ページ目の1番上の立地適正化計画のところに「居住誘導区域（都市機能誘導区域を含む）」と書いています。この中の災害リスクを検討していく、ということになるわけですね。あくまでも「居住誘導区域（都市機能誘導区域を含む）」この部分の計画を作っていくということになります。

#### 【市村会長】

避難場所は区域外にはないのでしょうか。誘導区域以外も使って室蘭市全体の防災計画という考え方もあると思います。危険なところは居住誘導区域と都市機能誘導区域で評価していると思いますが、例えば避難所などを考えるときに、それ以外の区域を使って防災計画を全体として考えるという捉え方もあるかもしれないなと思います。

#### 【事務局】

22、23ページの避難施設に避難できるかどうかという分析では、区域内の人が区域外に避難するという想定されています。

#### 【市村会長】

誘導区域とか都市機能に着目しながら全体を考えますよ、という発想がもしかしらいいのかもしれませんが。

### 【日栄委員】

言葉遣いなのだと思います。利便性というのが何かひっかかるだけで、これが例えば快適なまちの生活とか何がいいかわからないけど、利便性という言葉は人によって考え方の発想が違ってくるのかなと思います。

### 【山中委員】

居住誘導区域のことは、あまり気にしないでいましたが、実はこのエリアは大体、津波等のハザードにひっかかる。室蘭駅とか東室蘭駅とか。それがもうまちの機能としてある。あとは逃げ方がうまくできていればいいかなと私は理解していました。それをあえてここにこだわっちゃうと、居住誘導区域というものの自体の考え方を変えていかないとおかしくなります。というのが、東日本大震災で言うと、海岸線から完璧に街を高台に移動したまちのようになってしまいます。それが室蘭にできるかどうか。どうみても現実的ではありません。要はそういうことではなくて安全な逃げ方です。言葉は悪いけど、生活圏はしょうがないです。そのへんの使い方をきちんとしていかないと、非常に今みたいにわからなくなってしまうと感じています。

### 【森川委員】

どっちにせよあくまでも室蘭市立地適正化計画の中の防災指針を作るということ。それを基本として、あとは枠から出るものは出ても構わない。さっき言ったように、避難所は区域外のところも避難所になっているのもあるし、それをうまく言葉の中に入れていけば。

### 【山中委員】

そこに生活していることは、いまさら変えようがないし、これからも変えようがないので、そこはいかに安全にするか、そういう表現の他に無理した言葉を入れてしまうと、木村先生が指摘するような形になってくるのかなと思います。

### 【南川委員】

あくまでこれは立地適正化計画の中のものであって、立地適正化計画は都市づくりの話のはずだと思います。細かい話も含めて例えば目標2とかもそうですが、これは防災計画であって市民の皆さまで別にやることではないのかなと思います。だからこれは誰がやるものなのかなと。立地適正化計画でやることなのか。防災指針の中でやるのかって。これを都市計画の皆さんがやるものなのかどうか。正直、ずっと今回の指針を見ていてそう思っていました。立地適正化計画の中に入れるということは、市民の皆さんがここで居住するとき安全性を担保できるような街を作っていく、避難所がここにあるからここに住んでくださいとか、そういうことなのかなと、ずっともやもやしています。先の取り組みの話って、防災計画で、防災対策課にやってもらうことなのではないかなと思っています。目標の設定の2番とかがふさわしいものなのか疑問です。1番と3番、4番ぐらいがまちづくりの大きな仕事で、建物の配置とか、土地の特性を生かすような話です。2番やこの先の取り組みの話



って都市計画の話なのかなという気がしていますが、そのあたりも入れなければいけないという国の指針があるのでしょうか。

#### 【市村会長】

立適はハードだけじゃくマネジメントとしての経営的発想で、箱だけ作って中からはからっぽというのもよくないので、市民のソーシャルキャピタルというようなものも、資本としてとらえると考えるならば、市民のやることも入っていてもいいのかなという感じもしますし、今のご意見のようにドライに施設整備という観点で整理するというところもあるのかなと思います。そのあたりは結構難しいところがあると思います。

#### 【事務局】

市民力みたいところで言いますと、都市マスがあって立適があるという形の中で、都市マスにも地域で市民の担い手をうまく作っていきましようということが書いてあって、そのような市民のまちづくり活動の中でも、防災力を高めていくことができると思っています。そのこの視点はこの防災指針にはあまり多くは書いていないのですが、市民の防災力を高めるということもまちづくりの一環なのかなと考えています。

#### 【南川委員】

市民の話は否定しているわけではありません。要はこの部分は、避難所が足りてないから、みんなで協力しながら何とかしましようという話だと思いますが、それは防災指針でやることなのかなという考え方です。

#### 【真境名委員】

市民の話はすごく大事だとみんな認識していると思いますが、ハードに向けたソフトという考えが大事だと思います。例えばインフラが崩れても市民力があるからその復旧が3日で直るとか、あるいはさっきの話だと事前に情報が出ているから不平が出る人がいないとか、そんなソフトだったらハードにくっついているなどはと思いますが、単独で市民の防災力の目標が掲げられてもちょっと違う感じが確かにします。

#### 【事務局】

表現を考え直したいと思います。

#### 【松岡委員】

立地適正化の流れだけで市民の防災力の話が外れてしまったら、計画として成り立たないと思います。当然、防災計画はすでに市の方で持っていますから、重複すること前提で作るしかないと思います。あとは文言の流れさえ考えればいいと思います。重複する箇所を外していくと何もなくなってしまいます。

#### 【日栄委員】

流れを考えてみたらやっぱり両方必要だと思います。市民に防災認識を持ってもらうとか、ハードとソフトの両方について始めからインプットしてもらうために、市民とのまた一つ新しいやり方があると考えます。造詣の深い町内会の役員以外にも、僕みたいなものとか、まちで何か活動している人とか、まちでも影響力ある人とか、そういう人を入れてソフトとハードの説明会をする。そういう啓蒙プラス、先ほど事務局が言った担い手だったり、先生が言ったようにマンパワーをつくるのだったら、遠回りかもしれないけど、あえて第二の目標として、裏目標としてそこに市民をどう巻き込むか、というのが、彼らが脇役か主役かは分からないけど、そういうテクニックも室蘭のやり方として必要なのかなと。狭い地域ですから、マンパワーでどうにでもうまくいくと思います。今おっしゃっていたようにダブるのは仕方ない。ダブることのデメリットをメリットに変えるということで、市民をそこに巻き込んでいくというやり方もいいのかなと思った次第です。

#### 【森川委員】

最初に立地適正化計画をつくったときに一緒に防災指針をつくっていれば、それほど論議する形にならなかったのではと思います。全体としては、立地適正化計画やマスタープランの中に防災指針が入っているというのは、やっぱり大事なことだと思っています。このような防災のことを、市民や関係者に知ってもらうということが大事ですから、これは決していらぬということはないと思います。ただ今まで防災はかなり一生懸命やってきたところもあるので、また同じことが入っているような感じもします。41 ページの目標 2 とか目標 3 は、我々地域の共助とか自助の中でやっていかなきゃいけない大事なことだと思っています。また改めてこういうものが基本指針の中に入ってくるということは、やはり外すとかダメだとかというふうにならないと思いますので、これをまた充実させた中で、地域住民にいろんなことを知ってもらおうという取り組みにつながればいいのかなと思います。

#### 【日栄委員】

防災を通じてまちを知ってもらうということが、まちづくりの担い手を作ることに繋がると思います。この防災のための会議やこれからの過程がまちのためにもなったり、防災以外にも効果が出てくるのかなと思います。

#### 【森川委員】

室蘭市の地域防災計画がありますけども、市民の人はほとんど知らないんですよ。そういう意味ではこのマスタープランとか立地適正化計画に入れたということが大事なことはないかなと思います。

#### 【南川委員】

入れるなというところは言っていないのです。計画の要旨っていうのがあって、要は立地適正化計画での防災というところがあるので、防災計画も当然あるので多分被るようなこともあると思いますが、この後の取り組みのところもほぼほぼ被っているんですね。その中で、立地適正化計画が定めるべきものは、さらにこのルールを立地適正化計画の中で、特に防災の中でもやらなきゃいけないことですよとというのがあると、計画としても見やすいし、

そうじゃないとこの後で見た時に、これ全部都市計画の皆さんがやってるやつですからって聞かれた時に、これはやりませんって言われたら、消されちゃうだけの話になるんじゃないかなと思うので、その辺がこの後の話ですけど、これもやった方があれもやった方が良いというのが防災計画の中で定められていないことをここでまた入れてやるのかとか、その辺がどうやって議論されるべきなのかがわからないというか。特にこの先の6番の取り組みのところ心配です。

## 「6.市全体および地域別の防災方針と取組（案）」、 「7.防災まちづくりの目標値」、その他全体について

### 【市村会長】

今の方針と目標が次につながっているはずなので、逆に6番を考えてから後戻りして目標がきれいに決まるということもあるかもしれません。大枠の方針にこのあたりのハードとソフトのことを組み合わせて入れるということにしておいて、文言の細かいことを修正していきたいと思います。6番の防災方針や取り組みの文言の中で何かご意見というか、もうちょっとこういうものもこの中に入れるべき、あるいはこれは入れるべきではないというか、都市計画の範疇であるのかないのかということも含めてご意見いただいて、その中でソフトの面とか一切入らない形になれば、先ほどの目標で見たものがいないかもしれないですし、基本的に入ってくるのかなとは思いますが、そのあたりの細かい部分についてもご意見いただければと思います。

### 【西岡委員】

目標が取り組みの案につながっていると思いますが、その方針の部分でハードとソフトの両面からという風にお話がありましたが、今見ていくと、体制の構築とか啓発とか周知というのが結構多くて、ソフト面が非常に多くて、ハード面が見た感じ少ないのかなという印象を受けました。例えば蘭東地域で例えば日の出町とかにしても、町内会単位等で防災意識の向上、出前講座等を活用した地域防災活動等の啓発という取り組み案になっていて、これは完全にソフトではありますが、一番最初の分析のところでは、鷺別のアンダーパスは水没して避難路にならないと言われているのに、この啓発だけだと、ソフトだけで具体的な対策はいかないのかなと。もし、ハード面で行くのであれば、例えば鷺別アンダーパスが使えないのだったらもう一本橋を架けるなど、ちょっと踏み込んだ、できるできないを置いてやろうとする姿勢というか、そういうのはここに盛り込んでもいいのかな、というふうに、私は思いました。

### 【市村会長】

課題に対してどういう対策があるのか、手段があるのかというのがもうちょっと多岐にわたって、ソフトの面で、ハード面を含めてある程度幅広く考えたらどうか、というご意見だと思います。どのようなやり方があるのか、いろいろなハード面での対策もあるし、ソフト面での基本的なこともあるし、その組み合わせをどうしようかということだと思います。

### 【真境名委員】

なんかやっぱり市民にやってほしいという感じがします。これは行政としての計画書であり、なので我々が何をやるかというところをもうちょっと書いてもらった方がいいと思います。やっぱり死者出さないとか国の想定の2分の1でいいとか、そういうことを書いたら、何をしてほしいというのが出てくるので、その方が取り組みをちゃんと書けるのかなという気がします。ですので、やっぱり5と6と7番はセットみたいな感じなのでしょうねという感想を持ちました。

### 【山中委員】

6番のいろんな考え方が示されていますけど、私は実はこの計画の中で防災に関して一緒に考えていくべきだという話を前からさせていただいています。そういう意味ではすごく進歩しているし、いい形にできているかなと思っています。もう一つは、ここに書いてある共通認識を持つということですけど、市内全体を見ますと、地域ごとのギャップがある。一生懸命のところはすごくやっているが、そうでないところがなかなか動かない。そこをどう誘導していくかということが大切なのかなと。ハード面の話もありましたが、私は今の勤務先から考えるとハードを求めるだけの体力が今、国や自治体になような気がするので、少なくとも現状を直視している中でどう命を守っていくかということが大事なのかなという気がしています。そういう意味合いの中で取り組んでいきたいと思っています。社会福祉協議会自体は、この計画がどんな形であろうが、姿が見えてくると次の私どもの会社にも全部直接関わってきます。ボランティアセンターを含めながら、どこにどういう人がいて、次何をしなければならないかと関わってくるので、そういう意味合いのなかでは文言もありますけど、早い仕上がりを求めていきたいと思っています。行政の方は苦労されるでしょうけど、文言の整理はなかなか難しいので、よろしくお願ひしたいと思っています。

最後にこれ以外の話をさせていただきます。今日の新聞を見たら西いぶりの広域のゴミ処理場の跡地に災害ごみの捨てる場所を作ると書いてありました。それともう一つは、国でやっている中で、災害ゴミの基本方針ができているかという話では、室蘭市ではできているという話になっていますが、実は室蘭でつくっているのは平成31年につくった西胆振全体でのごみ処理廃棄する関係でしかありません。他の地域は独自で、直近のやっぱり日本海溝とか千島海溝のことを考えながら新しい指針ができてきています。そういう意味合いのなかでは新たな指針もつくっていただきたいし。ワーキングも室工大の先生が頭になってまだやっている最中です。そういう中でしっかりしたものをつくっていかなければならない。ただ考えられるのは、西いぶり広域連合のほうに災害ごみの仮置き場を作るとのことで、あそこは津波の影響を受ける場所ではないのかな、という気がしますけど、ただその後どうするかという形になります。その辺を含めながら都市計画の場所の問題ですからよく検討していただければありがたいなと。でないとゴミがまちなかに残ってしまうということを解決しなければいけないので、その辺はおさらいと勉強しながら進めていきたいと思っていますので、ちょっと頭に入れていただければいいかなと思います。残念ながらここにそのことが入っていなかったの、よろしくお願ひしたいと思っています。

### 【市村会長】

考え方としてはある程度これをベースにしますが、今日いただいた案を考慮して骨子の方に入れるということと、途中段階で方針を示しながらということもあるかもしれません。絶対的にここはという話があるのかだと思います。先ほどのソフトのことを入れるのかということは何とか落ち着いたかなと思いますけど、地域別のところの意見としてもハード的な対応を入れるという話や、なかなか難しいと思うご意見もあったというところであります。ただ、やわらかめな文言にするとかハード面を検討するみたいな言い方があるかもしれませんが、幅広めに入れておいてもらって、目標との関係に対応させながら一回整理してもらおうということをやっていたら、逆にこれ入れすぎじゃないかということがあれば、骨子案報告時に削除してもらおうような形で整理する形でいいと思います。

### 【真境名委員】

目標はもう少し具体的な数値の方がいいと思います。死者を1人も出さないとかすごく分かりやすい目標だと思います。1人でも4分の1でもいいですけど、そういうのがあると、計画がなんとなく整理されていくと思います。そのための方法として最重要地域とか出てくるかもしれません。6番はヒエラルキーがなくて満遍なくという感じがします。もちろん住んでいる人からすると自分の土地が一番関心事かもしれないですけど、役所的にどこが一番重点なのかとか、そういうのも分かるようなものがあると、ある程度まとめやすいのかなという気がしました。

### 【山中委員】

要はデータとか基本ベースとかでたくさん追い込みすぎちゃって、肝心の目標の安全というものが、薄くなっちゃっているという感じがあります。人を守るためにはどうしたらいいか、そのためのこういうことをやっていくという形のほうがいいと思いますが、提示する要因ばかりが先にたくさん書いてある気がします。分析ももちろんすごく大事なことです、表現の仕方があると思います。

### 【真境名委員】

やっぱり方針、目標を最初にした後で分析をしたほうがいいと思います。分析で人が死にますと言われたら、それでいいのですかという話になってしまうので、一人も死者を出さないと先に言ったほうがいいと思います。とりえず最大限に頑張りますとか、そういうのは計画としていないと思います。

### 【市村会長】

7番の分類の防災力強化とか情報共有とか、避難体制の強化というものが、結果的には死者を出さないという話につながっていると思いますが、もう一つその先の目標を何か検討すべきというご意見でよろしかったでしょうか。

### 【真境名委員】

ほとんど市民の方も分かると思いますが、建物が壊れたら人を逃すとか、そういうヒエラルキーが出てくるはずなので、家も流されないならその方がいいよねと言うのも分かるのですが、目標でヒエラルキーがあって、そこをクリアするような形で方策があるという。これが一番理想的かなと思います。

#### 【市村会長】

満遍なくなってしまうということですね。レベルごとの対応として、死者を守るのか生活を守るのかみたいなところのバランスが見えないということですね。

#### 【真境名委員】

市民の防災力を強化するという目標も、それはそうだなという感じだけになっちゃうので、その辺は勇気があるかもしれませんが、踏み込んで書いてもらえると本当はいいのかなと思います。

#### 【市村会長】

結局、発災前の話の目標にするのか、実際に発生した後の目標数値を出すかということの違いだと思いますが、実際に災害が起こった後の目標数値をベースに対応を考えろ、という考え方だと思います。そのあたりも先を見据えた上でこれらの目標値があるのが分かるような形にしていただけるといいと思います。

#### 【森川委員】

立地適正計画の中の防災指針を作る中においては、発災前のこういう室蘭市のまちづくりをしていくのですということになるので、これは発災前で発災後ももちろん大事なことですけど、そういうまちにしたいということだと思います。だいたい表現はこれで良くて、補助的にソフト面が出てくるのかなと思います。何がこの計画に必要なのかというのはやはり立地適正化なのです。立地適正化をする計画なのです。ここを見間違えちゃうと、すべて網羅した防災マップ的なものになってしまうので、これは基本的に室蘭市の安全なまちづくりを検討するためのものなので、そこを踏まえた計画づくりをしてもらったほうがいいのかなと思います。防災指針が後から出てきたものだから、後付けみたいになっているのだと思います。

#### 【市村会長】

現実的に居住誘導とか都市機能をどうしようかって話があるので、それをベースに考えていくということだと思います。その中で拡散しすぎないようにということに留意しながらやっていきたいと思います。

#### 【山中委員】

ただ、国が進めているこの津波予想とかそのようなものを見ますと、居住誘導区域はいいのですが、まずは人命です。そういう部分を守るということで、そこにある建物は度外視です。言葉は悪いですけど、両方とも考えちゃうと難しいので、それはそれ、だけど人命を守るな

ら守るという形の中で、避難誘導を含めたやり方をしていかなければならないのかなと思っています。それを一緒にやってしまうのはたぶんできないと思います。

#### **【川村委員】**

議論が発散しているところもあるのかなと思って聞いておりました。どう決めるかというのは整理されてきていて、出てきているデータ等に関してはかなり正確なものになっていると思いますので、その中で室蘭市が何を求めるかということを明確にして、つくられていただければいいかなと思います。

#### **【山中委員】**

以前、災害時の高層建築物の倒壊マップ的なものについて結構やり取りしたと思いますが、これは今回関係しないのでしょうか。室蘭も高層建築物が増えてきていると思いますが、それが倒壊したら動線がなくなってしまうという話があります。そんな対策の話がありましたよね。洪水などの対応を考えているのであればそれを考えなくていいのかなと思いました。

#### **【事務局】**

耐震改修促進計画のことですね。あの計画では建物の倒壊に対する対応のことを言っていて、今回はもっとまちづくりの面で考えている話なので、改めて耐震改修促進計画の倒壊建築物はどうしますかという話は入れるつもりはなかったのですが、取り扱いについて検討します。